

《1年次講座プログラム・日程表》 ※テーマ・学習内容は変更となる場合があります

日程／講座・講師	テーマ・学習内容
2026年6月4日(木) 開講式・オリエンテーション	開講式:所沢市民大学学長(教育委員会教育長)から祝辞があります。 オリエンテーション:市民大学の概要、グループ活動、役割分担などについて説明します。
6月11日(木)・18日(木) 音楽 笠松 泰洋 (作曲家・演奏家) 2年次講座 担当講師	「人類の足跡と音楽」 1日目「世界の音楽は繋がっている」:2日目「オペラの登場と近代西洋音楽の発達」 遺伝子解析の発達により明らかになってきた人類の足跡と、言葉の発明より先にあったとも言われる音楽がどのように生まれてきたかの考察の変化をふまえ、音楽史を再考します。また、オペラの登場がもたらしたものに着目して西洋音楽も再考します。
6月25日(木) 所沢の歴史と文化 文化財保護課職員	私たちが暮らしている所沢は、どのような地域で、どのような歴史、文化を歩んできたのでしょうか?この講義では古代から現代にいたるまで、駆け足で所沢の歴史や文化の特徴を学びます。
7月2日(木) 文学① 清原 康正 (文芸評論家) 2年次講座 担当講師	「エッセイから辿る池波正太郎の生涯」 作家を理解するにはエッセイを読むと考え方、人柄、日常生活などが良く理解できます。今回の講座は、池波正太郎の数多くのエッセイを辿りながら作品に対する情熱、人生観、日常生活などに焦点を当てます。
7月9日(木) 自由企画	この日は各グループで自由な計画を立てて共に学習し、親睦を深めます。
7月16日(木)・23日(木) 福祉 李 泰俊 (早稲田大学非常勤講師) 2年次講座 担当講師	「老いはどう生きるか-支え合いの社会を考える-」 1日目「老いは“個人の問題”か“社会の問題”か」:2日目「これからの老いをどう設計するか」 老いは自己責任か、それとも社会の課題か。高齢社会の現実と制度の仕組みを学びながら、地域における孤立や支え合いの問題を考察します。これからの人生を主体的に設計する視点を共に深めます。
9月3日(木)・10日(木) 地域の自然 正田 浩司 (大東文化大学非常勤講師) 2年次講座 担当講師	「所沢市周辺の地形発達と自然の歴史」 1日目「“となりのトトロ”に学ぶ所沢周辺の地形」:2日目「最終氷期以降の植生の変遷」 所沢市周辺の地形はどのようにしてできてきたのか?植生はどのように移り変わってきたのか?身近な自然の歴史について考えます。立体模型や地形図なども活用しながら、具体的なイメージがつかめるようにします。
9月17日(木)・24日(木) 所沢の歴史 門内 政広 (文化財保存全国協議会会員) 2年次講座 担当講師	「所沢の魅力、再発見の旅」 1日目「谷戸(やと)のある生活」:2日目「古道からみる古(いにしえ)の所沢」 狭山丘陵の谷戸をはじめ、自然との関わりの中で生まれ、育まれてきた先人の文化に目を向けます。「東山道武蔵路(とうさんどうむさしみち)」、「鎌倉街道」、「江戸道」などの所沢を歩いていた古道に着目しながら所沢の魅力を見つめます。
10月1日(木) 所沢の農業 淵野 雄二郎 (東京農工大学名誉教授) 2年次講座 担当講師	「所沢農業と市民的食農システムの可能性と課題」 所沢市の多様な農業経営の現状に注目し、食料供給の不安定化や環境危機に所沢農業は、どのように対応すべきかを考察します。地産地消や援農ボランティア活動など農家と市民の協働活動をJAや行政の施策にどのような道筋で反映させていくか等について検討します。
10月8日(木)・15日(木) 健康スポーツ 樋口 満 (早稲田大学名誉教授) 2年次講座 担当講師	「動楽と食楽で健康長寿」 1日目「老化プロセスと健康・体力」:2日目「健康寿命を伸ばすライフスタイル」 ミドル～シニア・エイジにとって、健康・体力の保持はQOL(Quality of Life;生活の質)を高め、生きがいのある生活を送るための基盤です。健康・体力づくりの2本柱は運動(“動楽”)と食事(“食楽”)です。本講座では、健康長寿の基盤である“動楽と食楽”について学習します。

《1年次講座プログラム・日程表》 ※テーマ・学習内容は変更となる場合があります

日程／講座・講師	テーマ・学 習 内 容
10月29日(木) 文学② さいとう なおこ (子規庵保存会理事長)	「文豪子規の素顔」 重い結核を患いながら俳句や短歌の改革に力を尽くした「正岡子規」とはどのような人物だったのでしょうか。三十四歳十一か月で亡くなったその素顔は病床生活の中に喜びを見つける天才でした。健やかなまなざしを持って生きた子規の日常をご紹介します。
11月5日(木) 移動学習【自由参加】	社会科見学を予定しています。学びとともに受講生同士の親睦を深めます。
11月12日(木)・19日(木) 美術 斎藤 陽一 (美術ジャーナリスト)	「ピカソの読み方 ①・②」 ピカソの絵画は創造と破壊を繰り返し、変貌を続けたため難解と言われるかもしれませんが、読み解く「キー」が存在します。「キー」を使って作品と対面すれば、よく理解することができ、身近に感じられます。各時期の典型的な作品を取り上げ、「キー」を使ってピカソの芸術を読み解きます。
11月26日(木) 国際文化交流 峯岸 弘之 (国際交流ボランティア)	「ドキドキ・ワクワク—未知との遭遇での不安と楽しさ—」 グローバル化が進み、多様な文化・人々との接触が増えています。未知の世界に足を踏み入れるのは不安もありますが期待もあります。一步踏み出せば世界が広がり、そのことが自国の文化社会を見つめ直すことにもつながります。国際理解・異文化交流について考えましょう。
12月3日(木) 脳の科学 阿部 和穂 (武蔵野大学教授)	「脳を知り、脳の衰えを防ぐ」 普段私たちは自分の頭の中にある脳がどんな働きをしているか意識することは少ないですが、認知症などを考えたとき、脳の働き、そしてそれを衰えさせないためにはどうすればよいか知りたくなるに違いありません。今回の講座ではその手助けとなる情報を提供します。
12月10日(木) 日本の外交 茂木 貴 (国際情勢アナリスト)	「世界の動きと日本」 今回の衆議院選挙の衝撃的な結果は、日本の歴史的な分岐点になりえるものと考えます。世界は「トランプ現象」により戦後秩序は崩壊し「力こそ正義」の時代を迎えています。「前途多難・五里霧中」の国内外を、見通す術はありませんが、何が大切なのかを考えていきましょう。
12月17日(木) 食の安全 高橋 久仁子 (群馬大学名誉教授)	「健康に関連する食の情報を科学する～フードファディズムとは～」 健康に関連する虚実混交の食情報が溢れています。フードファディズムは「食べものや栄養が健康や病気に与える影響を過大に評価・信奉すること」で、食情報にはこれがたくさん紛れ込んでいます。フードファディズムの実例と健康に配慮した食生活について考えましょう。
2027年1月14日(木) 中核市を目指す所沢市 経営企画課職員	「もっと可能性が広がるまちへ」 所沢市は2030年4月に中核市になることを目指していますが、市民の中にはそのことを知らない方も多いかもかもしれません。なぜ所沢市は中核市を目指しているのか？中核市になると市民の暮らしはどう変わるのか？所沢市の将来の姿について学んでいきます。
1月21日(木) 災害対応力が脆弱な所沢 齋藤 宏保 (フリージャーナリスト)	「地域防災力を高めて、大災害に備えよう！」 いつ起きてもおかしくない「首都直下地震」、地球温暖化による豪雨災害の頻発、台風強大化の中で、所沢もいつ大きな災害に巻き込まれるか分かりません。どうすれば地域防災力を高められるのか、長年の災害担当記者や自治会役員の経験を踏まえ、お話しします。
1月28日(木) 家族と福祉 根岸 弓 (横浜市立大学准教授)	「所沢市民として守られるべき人は誰？家族による福祉を前提とする日本型福祉を再考する」 明治以降、社会福祉の制度化は「家族」を前提に進められました。家族で何とかしようという考えは現代の私たちにもなじみ深いものです。しかし、家族は万全な要塞たりうるのでしょうか？所沢にもある児童虐待、ホームレス、介護などの問題を家族と福祉の視点から考えます。